

R

+R 未来を生み出す人になる。

立命館大学

RITSUMEIKAN

+R REPORT 2007
-2008

RITSUMEIKAN UNIVERSITY

+R REPORT 2007-2008

c o n t e n t s

- 1 発刊にあたって
- 2 2007年度立命館大学の主な事業
- 6 2007年度財務報告・2008年度予算
- 8 2008年度立命館大学の主な事業計画

発刊にあたって

立命館学園は、一世紀を超える学園創造の中で、人類共通の諸課題を追求すると共に、個性溢れる人材を養成してきました。21世紀の社会を展望し、多様化・複雑化する社会のなかで中長期的なビジョンを持ちつつ、情勢の変化に速やかにかつ柔軟に対応できるよう計画を策定し、課題を推進しています。

立命館大学では、立命館憲章でも謳っている通り、「確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる」人材の育成に向け、学生の主体的な学びを育成する、学習者中心の教育を行っています。

ここに、「+R REPORT」として、立命館大学の事業の概要ならびに財務状況についてお知らせいたします。立命館大学は今後も、学生の皆さんが積極的に行動し、自らの力によって、未来を切り拓き、未来を生み出す人材として成長するサポートを全力で続けてまいります。



+R 未来を生み出す人になる。

立命館大学

すべての学園関係者の「心をひとつ」にするためのコミュニケーションマークを制定しました。

2007年度新学部・新学科設置

●映像学部

映像を総合的な視野でプロデュースできる人材の育成を目指して映像学部を設置。先進の技術を駆使して、芸術性の高い映像を生み出し、発信していきます。



●大学院公務研究科

社会の諸問題を解決する「政策力」を身につける公務研究科を設置しました。政策課題の具体化、現場調査、統計データの収集等を通して、多角的な調査・分析能力や課題に対して具体的な施策を構築する能力を育成します。



●産業社会学部小学校教員養成課程

産業社会学部では、子ども社会専攻に小学校教員養成課程を設置し、他学部の学生も履修できるようになりました。これに伴い音楽、理科、保健体育等の実験・実習を行う施設として「育友館(地下1階、地上2階)」を建設しました。



産学官連携事業

●松竹一立命館一京都府の連携

松竹株式会社と学校法人立命館は「連携基本合意書」を締結し、京都府の支援を頂いて産学官連携事業を実施しています。映像産業の発展を担う人材育成および映画・映像技術の研究開発を通じ、京都を中心とした文化の創造・発展を目指す取り組みを3者の連携の下に実施していきます。



●京都大学と「連携協力に関する基本協定」を締結

2007年12月、京都大学と学術交流に関する包括協定を締結いたしました。「文化発展及び科学技術成果の迅速な社会還元」を目指して連携協力し、研究・教育内容の充実と学術・文化の発展および科学技術の高度化を追求します。



総合理工学院の新展開

●生命科学部・薬学部設置に向けた取り組み

2008年4月の開設に向けた準備を進めました。生命科学部は、医科大学や産業界とも連携しながら、教育研究の成果を社会に還元していきます。薬学部は、高度な専門知識と技術を持った医薬品のエキスパート、人体と薬の科学に対する幅広い知識と研究マインドを併せ持つ薬剤師の養成を目指します。



スポーツ分野の課外活動の支援

●「BKCグリーンフィールド」、 「アスリートクラブハウス」の整備

アメリカンフットボール部とラグビー部の専用グラウンドとして「BKCグリーンフィールド」を新たに整備し、さらに両クラブの活動拠点として「アスリートクラブハウス」を整備しました。



文部科学省による大学教育改革支援

様々な分野の取り組みが、文部科学省による大学教育改革支援プログラムに採択されました。

●「琵琶湖で学ぶMOTTAINAI共生学 —文理総合学習と地域連携による環境政策・環境マネジメント人材の育成—

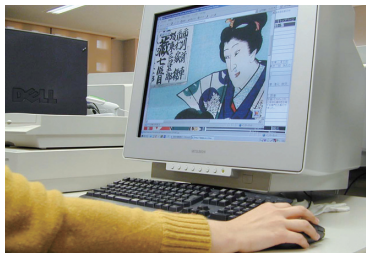
科学の目と社会的正義の感性を持つて国際的な視野で環境問題を考える力こそ、世界的な用語となったMOTTAINAI精神であるといえます。本プログラムは、行政、産業、地域社会で、環境問題解決のための政策提案や環境マネジメント事業の中心となって活躍する人材の育成を目指します。



●文学部「京都歴史回廊プログラム」科目開講

人文学の視点から地域的特質や地域資源を再発掘し、活用のための将来展望を地域とともに描く教育プログラムです。京都歴史回廊協議会や地域の皆さんとの連携によって、学生と地域住民(一般受講生)がともに学び、ともに地域について考える取り組みを展開しています。





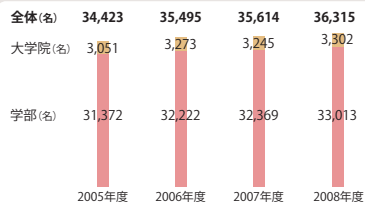
●「グローバルCOEプログラム」への取り組み

文部科学省が国際的に卓越した教育研究拠点を支援する「グローバルCOEプログラム」には、「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」および『『生存学』創成拠点』が採択されました。両拠点では研究成果の創出に向けた取り組みを行っています。

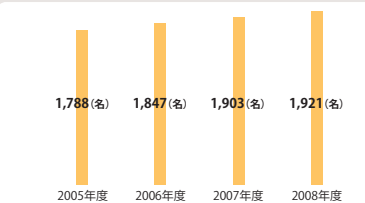


DATA

学生数推移



教職員数推移



学生1人が1年間学ぶのにかかる費用

教育基礎経費 871,519円(55.7%)	【教育基礎経費内訳】	
	教育・研究関係	141,852円
教育支援経費 136,263円(8.7%)	図書館関係	37,930円
	国際交流関係	29,253円
教育条件整備経費 557,448円(35.6%)	情報システム関係	46,357円
	教職員人件費	616,127円
【教育支援経費内訳】		
学生援助・就職支援関係		113,872円
健康管理		1,562円
学内広報(学園通信等)		7,899円
社会とのネットワーク		12,930円
【教育条件整備経費内訳】		
建物等改修		160,517円
建設・設備整備		236,988円
水光熱費		30,553円
清掃等環境整備		45,724円
学園運営関連		54,061円
借入金返済		27,546円
借入金利息		2,059円
合計 1,565,230円		
学生1人あたり 学費		1,211,073円
学生1人あたり 補助金		167,934円

4

2007年度立命館学園の主な事業

一貫教育への取り組み

立命館は総合学園として、小学校から大学院までの一貫した教育システムを通じて、豊かな人間性と高い倫理観、深い教養を兼ね備えた、社会の発展に貢献できるリーダーの育成を目指しています。各附属校では、総合学園であるメリットを生かし、大学・大学院の学びと連動した「学びの主体」を育てるための教育を展開しています。



●立命館守山中学校設置

滋賀県守山市三宅町に立命館守山中学校を設置しました。中学校設置と同時に同校地に立命館守山高等学校を移転しました。

●提携校において立命館コース設置

2006年度の平安女学院中学校・高等学校(京都市)との提携に引き続き、岩田中学校・高等学校(大分市)及び育英西中学校・高等学校(奈良市)との間でも協定を締結しました。



国際交流への参画

●中華人民共和国温家宝首相が来訪

立命館は、アジア地域および国際社会の平和と発展を担う人材を育成することを使命とし様々な取り組みを進めています。2007年4月、中華人民共和国の温家宝首相が衣笠キャンパスを訪れ、立命館大学学生、立命館小学校児童と交流をしました。これを受け、2008年3月には立命館大学学生が「2008年中日青少年友好交流年」行事に参加しました。



5

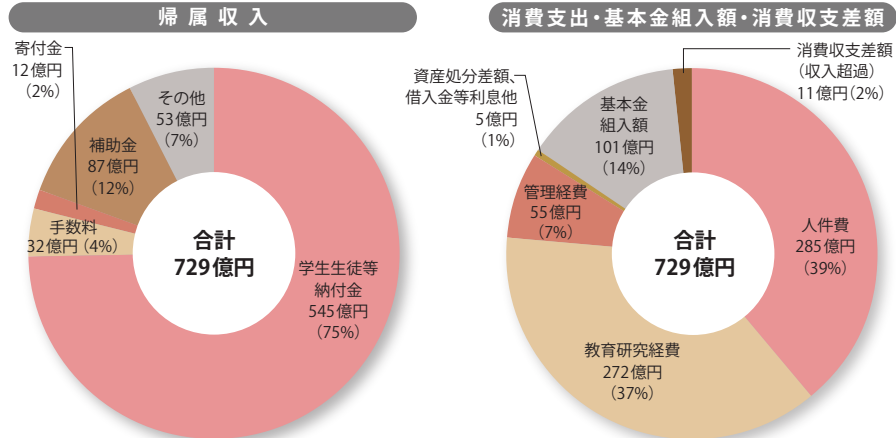
立命館アジア太平洋大学の取り組み

●アジア人財資金構想プログラム

文部科学省・経済産業省が実施する「アジア人財資金構想」によるプログラム(2007年度採択)では、協力企業14社と連携し、アジア地域の学生を受け入れ、日本企業で就業するグローバルビジネスリーダーを育成する教育を開始しました。



立命館学園の2007年度の収入・支出の特徴



■ 消費収支差額

消費収支計算書は学校法人の経営の状況を表します。学園の2007年度決算では11億円の収入超過でした。立命館では消費収入(=帰属収入-基本金組入額)と消費支出が均衡となるように財政運営をおこなっています。

■ 基本金組入額

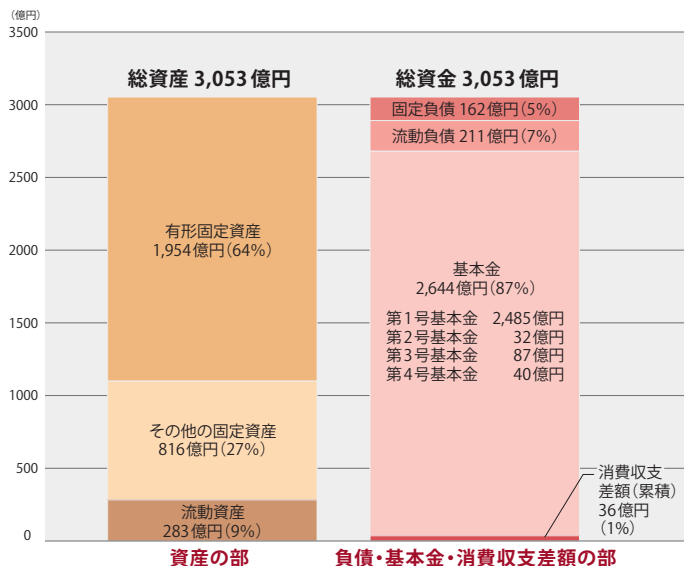
2007年度は、充光館(映像学部教室棟)やサイエンスコア(薬学部教室棟)の建設事業や奨学基金への積み立てなどを行い、101億円を基本金に組み入れています。帰属収入に対する比率は13.8%です。

■ 自己資金

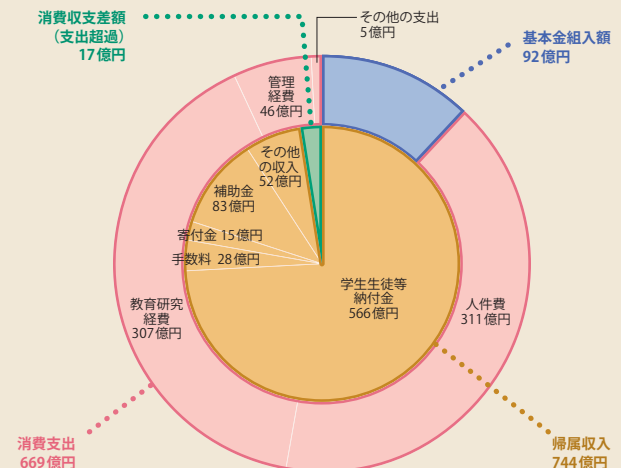
貸借対照表は学校法人の財政状況を表します。2007年度末では自己資金(=基本金+累積消費収支差額)が2,680億円、他人資金(=負債。借入金や学校債など)が373億円です。総資金に占める自己資金の比率は87.8%で、安定した財政状況となっています。

(学園財政の詳細は、計算書類 http://www.ritsumeijp/public-info/public02_j.html、事業報告書 http://www.ritsumeijp/profile/a08_j.htmlをご覧ください)

2007年度末 総資産・総資金に対する構成比率



2008年度予算 ※当初予算



教育力量向上に向けた取り組み

グローバル化の進展に伴い、教育の質保証が国際的な重要課題となるなか、立命館大学では、教育の質の向上に向けて、「学習者が中心となる教育」を進めています。

● 学習者の視点からの教育力強化の推進 (FD: Faculty Development)

立命館大学では、FD活動について実質的な取り組みに着手しています。2008年4月には教育開発推進機構を設置。「学生参加型の授業活動の推進」のために、学生FDスタッフも参加しながら教育改善・改革に向けた活動を進めています。

● 未来を生み出す「学びのコミュニティ」の創造に向けて

学生が学びの主人公として成長するために

学生が意欲を持ち、持続的に学んでいくことができるよう、初年次教育の充実、学生同士の学びあいの発展、教養教育の改善を進めています。

また、卒業時学力の目標の明示、カリキュラムの系統化、授業運営の工夫と充実、外国語教育の改善、キャリア教育の充実等、学生が確かな学力と豊かな個性を育むための学びのシステムの構築をはかっています。



研究高度化に向けた取り組み

● 立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO) 設置

環境や医療・健康など21世紀の課題解決のための研究組織「立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO)」を2008年4月開設しました。このR-GIROを「地球市民の要請に応える研究のシンボル」として位置づけ、立命館学園の中核的研究組織として研究の高度化と社会貢献を進めています。

● 歴史都市を守る「文化遺産防災学」推進拠点が 文部科学省グローバルCOEプログラムに採択

文化遺産とこれらを取り巻く歴史都市を災害から守るための教育・研究を推進し、国内にとどまらず世界各地で文化遺産を災害から守るリーダーとなる人材を育成することを目的とします。



国際社会への貢献

● ミャンマー・サイクロン／中国四川大地震災害復興支援企画

「Potential of Your Voice ～世界に広がる愛がR～」

2008年3月に中国に訪問した学生たちが中心となって「何か自分たちにできることがあるのではないか」という思いからチャリティ・イベントを企画。募金活動に加え、外務省から講師をお迎えして「中国四川省大地震緊急援助活動に参加して」というテーマで学生を交えての意見交換会などを開催しました。



より幅広く多様に学べる教学の展開

実社会では、基礎学力と共に幅広い教養に裏づけされた思考力が求められます。学部での学びを深めると共に、社会と連携し、地域に貢献する学びを「サービス・ラーニング」として推進し、国際教育やe-learningのいつそうの充実をはかります。



● 2008年度新司法試験に59名、国家公務員Ⅰ種試験に36名が合格

学生は多様な進路を切り拓いています。2008年度新司法試験には、本法務研究科(法科大学院)修了者から59名が合格し、国家公務員採用Ⅰ種試験には36名が合格しました。

● 2009年度文学部新プログラム設置に向けて

2009年4月の設置に向け、準備を進めています。

京都学プログラム

『京都で学ぶ、京都「に」学ぶー世界へ、日本文化を発信する「京都学ー」』をテーマにしたプログラムです。

言語コミュニケーションプログラム

豊かな音声表現、文章表現の方法を実践的に学び、現代社会のあらゆる場面で必要なコミュニケーション力を養い、「ことばのプロ」を育てる実践系プログラムです。



学生生活を支える取り組み

● 京阪中書島～びわこ・くさつキャンパス (BKC) 間 高速バス路線開通

JR大津駅からBKCへ高速道路を経由したバス路線も運行し、通学時間を大幅に短縮しました。



● BKC内にサンドイッチ・チェーン店『サブウェイ』出店

野菜不足になりがちな学生向けに低価格でヘルシーな食事を提供しています。地元野菜の「水菜」を利用した季節限定メニューなど、オリジナルメニューも提供しています。



● キャンパス禁煙化に向けた取り組み

各キャンパスに「喫煙シエルター」を設置し分煙を実施。また禁煙化推進キャンペーンを定期的に行っています。



● AED増設と教職員向け講習会の実施

「キャンパス内で4分以内にAED(自動体外式除細動器)に到達可能なように設置する」ことを基準に全学で合計131台を配置しました。





〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1
<http://www.ritsumeijp/>